

ソフィー・ザ・経営者英語大学
The Weekly Lecture
ウィークリーレクチャー

こんにちは。
ソフィー・ザ・経営者英語大学の三浦哲です。

今日は「ミーム」について勉強しましょう。

聞いたことありますか？「ミーム」。

これは 1976 年に出版された
『The Selfish Gene (邦題：利己的な遺伝子)』
<http://www.amazon.co.jp/exec/obidos/ASIN/4314005564/sophy-22>
という本の中でオックスフォード大学の生物学者リチャード・ドーキ
ンス氏がはじめて使った言葉です。

生物学の分野ではとても有名。

もともと生物学に関するものなのですが、
口コミを考える上でも非常に参考になる考え方です。

まずは原文から読んでみましょう。

本文 101 ページのはじめから 23 行目までです。

それではどうぞ。

.....

Crisis – the quick reaction needed by many people requires the spreading of the idea that the crisis is imminent.

Mission – the concerted effort of many people needed to accomplish major goals requires that the idea of the mission be rapidly spread and accepted by as many people as possible.

Problem – those situations in which the rapid involvement of many people is desirable. It is also extremely gratifying to communicate the solution of widespread problems to large numbers of other people who might have similar problems.

Danger – similarly, the knowing about potential dangers can significantly increase the safety of each person when large numbers of people know about it. Also, people like to protect other people. So the idea of danger tends to get rapidly communicated.

Opportunity – many opportunities increase in value when other people know about them. Many do not. For instance, when you know that a particular company is likely to be successful, you might recommend its stock to large numbers of people after you have bought the stock yourself. Before that, you might keep it a secret, the opposite of a meme.

.....

「ミーム」というのは利己的な一種の「意志」を持っているかのように振舞う遺伝子や情報の単位のこと。(ちょっと難しいですね。)

遺伝子や「情報のかたまり」は自分でコピーを増やしていこう、とする性質を持っていて、一定の条件がそろると一気に増殖したりする、ということをお本の中で言っています。

生物が自分の子孫を残していこう、という本能があるように、もっと小さい遺伝子のレベルでそういう意識が働いている、と言うのです。

そして遺伝子というのは結局「情報」です。

ですから生物に限らず人間の間飛び交うような「情報」も同じような性質を持っている、と言うのです。

興味深い考え方だと思いませんか？

今度は訳付きで読んでみましょう。

.....

Crisis / 危機 /

- the quick reaction / 迅速な対応は /
needed by many people
/ 多くの人々に必要とされる /
- requires / ~を必要とします /
the spreading of the idea
/ 知識を広めること /
that the crisis imminent.
/ 危機が迫っているという /

Mission / 使命 /

- the concerted effort of many people
/ 多くの人々の協力は /
needed to accomplish major goals
/ 重要な目的を達成するために必要とされる /
- requires / ~を必要とします /
that the idea of the mission
/ 使命とする考え方が /
be rapidly spread and accepted
/ 急速に広まり、受け入れられること /

by as many people as possible.
/できるだけ多くの人に/

Problem / 問題点 /

- those situations / (in which 以下のような) 状況 /
in which the rapid involvement of many people
/早くたくさんの人を巻き込む /
is desirable.
/が望ましいです。

It is also extremely gratifying

- /また (to 以下のことは) とても条件を満たします /
to communicate the solution
/ 解決策を伝えること /
of widespread problems
/ 広範囲における問題の /
to large numbers of other people
/ 他の多くの人に /
who might have similar problems.
/ 同じような問題を抱えている /

Danger / 危険性 /

- similarly, / 同じように /
the knowing about potential dangers
/ 潜在的な危険性について知ること /
can significantly increase the safety of each person
/ 個人の安全度を著しく高めることができます /
when large numbers of people know about it.
/ 多くのひとがそれについて知っているとき /

Also, people like to protect other people.

/ また、人は他人のことも守りたいと思っています /

So the idea of danger tends to get rapidly communicated.

/ だから、この危険性に対する考えかたは早く伝えられやすい

のです /

Opportunity / 機会 /

– many opportunities increase in value

/ 多くの機会は価値を高めます /

when other people know about them.

/ 他の人がそれらを知ったときに /

Many do not. / 多くの人はその機会を知らずに /

For instance, / 例えば /

when you know that a particular company is likely to be successful,

/ ある会社が成功しそうだと分かったら /

you might recommend its stock

/ あなたはその会社の株を勧めるかもしれません /

to large numbers of people

/ 多くの人に /

after you have bought the stock yourself.

/ 自分でその株を買った後に /

Before that, / その前だったら /

you might keep it a secret,

/ 秘密にしておくかもしれません /

the opposite of a meme.

/ 「ミーム」の反対に /

.....
チェックしておきたい単語が2つ。

ひとつ目は抜粋文中2行目の”imminent”。

これは「差し迫った」とか「切迫した」という意味。

ドキドキするくらい緊迫した感じを受けます。

もうひとつは3行目の”concerted effort”。

これは「協力」という意味。

他にも”alliance”とか” collaboration”などが同じような意味です。
覚えておきましょう。

以上の表現を頭に入れながら、もう一度原文を読んでもみます。

ここでは「口コミ」としての「ミーム」が広がりやすい5つの状況を説明しています。

自分の商品やサービスを口コミで広げたい、と思っている時、これらの状況を頭に置きながら切り口を考えると非常に参考になると思います。

それではどうぞ。

.....
Crisis – the quick reaction needed by many people requires the spreading of the idea that the crisis is imminent.

Mission – the concerted effort of many people needed to accomplish major goals requires that the idea of the mission be rapidly spread and accepted by as many people as possible.

Problem – those situations in which the rapid involvement of many people is desirable. It is also extremely gratifying to communicate the solution of widespread problems to large numbers of other people who might have similar problems.

Danger – similarly, the knowing about potential dangers can significantly increase the safety of each person when large numbers of people know about it. Also, people like to protect other people. So the idea of danger tends to get rapidly communicated.

Opportunity – many opportunities increase in value when other people know about them. Many do not. For instance, when you know that a particular company is likely to be successful, you might recommend its stock to large numbers of people after you have

bought the stock yourself. Before that, you might keep it a secret, the opposite of a meme.

.....

口コミというのはホント「生き物」です。

私は大学2年生のとき、これを実感する体験をしました。

自分のアパートの目の前にある学習塾でアルバイトしていたんです。ある日、いつものように授業が終わりました。でも、その日はなぜだか友達同士で話が盛り上がったようで中学生の女の子たちがなかなか塾の前から帰ろうとしませんでした。

塾長が

「夜遅いから早く帰れ。」

と何回言っても言うことを聞きません。

業を煮やした塾長は何とか彼女たちを早く帰そうと、言いました。

「お前ら知ってるのか？最近12時近くになると、不法労働のパキスタン人がガード下で若い女の子たちを襲っているんだぞ。危ないから早く帰れ！」

それを聞いた女の子たちはびっくりしてそそくさと帰っていきました。

その話をしてから数日間、女の子たちは早く帰るようになったので塾長は満足そうでした。

しかし・・・。

1~2週間のうちに大変なことが起こりました。

塾のあった埼玉県全域の中学校に

「パキスタン人が夜に女子中学生を襲っている」

というウワサが広まってしまったのです。

実際にはこういう事実はありません。

根も葉もないウワサです。

「こんな心無いウソを広めるなんて一体誰のしわざなんだ！」
「人種差別主義的な行いで、言語道断だ！」
などという議論が起こり、大騒ぎになりました。

当時の新聞紙上にもぎわせていました。

確か 1991 年のことです。
もしかすると当時埼玉に住んでいた場合はこの騒ぎを覚えているかもしれませぬ。

結局、ウワサの出所は公にならず、塾長が非難を受けるようなことは無かったのですが、
その塾長が一生懸命塾の宣伝をしてもなかなか広まらなかったのに、
不用意な一言がこんなにあっと今に広がってしまうなんて、
と本当に驚きました。

この経験から私は「口コミは生き物だ」という実感を得ました。
だから生物学の観点から口コミを考えてみることはとても重要で有益なことだと思います。

もし時間があれば、この「利己的な遺伝子」読んでみてください。
参考になると思いますよ。

<http://www.amazon.co.jp/exec/obidos/ASIN/4314005564/sophy-22>

それでは以上、今週のレクチャーでした。

本文中で差別的な言葉を使っていますが、これは文章の意味を適切に伝えるためにあえて使っているものです。ご了承ください。

ソフィー・ザ・経営者英語大学
学長 三浦哲